

# 「アウエー」生活失敗怖がらず

いま No.471  
子どもたちは  
だから海外留学⑭

小中高校生の留学希望者が増える兆候があると言われる。目的や理由、期間は様々だが、留学を志す子どもや親は、どんなことに気をつけたいのか。

成功、失敗の分かれ目は。NPO法人留学協会(本部・東京)理事で国際教育コンサルタントの岩崎宗仁さんに聞いた。

留学成功の重要な要素は、子どもの意思です。小中学生の場合、親の意向が大きいでしょうが、親と子の温度差はないか、なぜ留学なのか、親子できちんと話し合う必要があります。語学力を身につけたいなら「駅前留学」で十分かもしれないし、環境を変えたいなら、国

内の山村留学や寄宿舎がある学校への転校でもいい。留学には華がありますが、すべての解決策ではありません。

留学先で輝く子は、留学を選択肢の中から積極的に選び取っています。「受験に失敗したし、親とも暮らしたくないし、働くのも嫌だし……」というふうに消去法で選ぶと、現地で壁にぶつかったとき、つぶれてしまいがちです。途中で帰国する子も少なくありません。



NPO法人留学協会の理事で、AJ国際留学支援センター代表の岩崎宗仁さん

留学先では、あまり完璧を目指そうとしないこと。海外という「アウエー」での生活なので、言葉が不自由で失敗するかもしれないし、意地悪されたり差別を受けたりするかもしれない。「失敗して当然」、「いい

経験になる」と聞き直るくらいがいい。最近では、習い事や学校の選択から子どもの問題の解決まで、すべてやってしまう親が多いと感じます。ある日突然、「これからは自分で決めなさい」と言

われても、子どもはできない。留学は、自分で考える力やマニアルがなくても生きていく力を身につけるいいツールです。空港で荷物が出てこなかったり、パスポートをなくしたり。「アウエー」の環境で起きた突発的なトラブルをどう解決するか。そういうことを乗り越えて帰国した子どもたちは、背骨が太くなったと感じます。それが留学のだいご味でしょう。

◇ (杉山麻里子)

「だから海外留学」は終わり、次回は27日に始めます。